

鈴木みどり 議員 無会派

高齢化が進む中、側溝清掃に 対する本市の考えは

問

毎年、年末になると、区長を通して市への要望（土木申請）をしている。

要望を何度出しても、優先順位があり、施工されず不信感を持つ住民がいる中、尋ねる。

- (1) 区長申請の有効期限は、
- (2) 年度ごとの申請件数は、
- (3) 申請に対する施工実績は、どの程度達成されているか。
- (4) 高齢化が進む中、側溝掃除に対する市の考えは。

地元の現状を報告していただき申請にっ
なげていきたい

答 開発部長

- (1) 有効期限は、申請年度から3年間である。
- (2) 側溝工事の申請件数は、

26年度は26地区で45件、27年度は25地区で39件、28年度12地区で14件である。

側溝申請の延長は、おおむね2千m前後である。

- (3) 申請に対する施工実績は、側溝工事で26年度約39%、27年度約49%、側溝しゅんせつは26年度約7%、27年度約13%、カーブミラー設置は26・27年度とも約60%、カラー舗装は26年度100%、27年度は路肩のカラー舗装が約75%、交差点のカラー舗装が約46%である。
 - (4) 地域活動の協力で行われている地区もある。
- しかし高齢者にとって、側溝清掃は危険である。
- 側溝のふたをコンクリート製から鉄の編み目製（グレーチング）に換えるなど、

幹線道路や、泥の堆積程度により地元でできない箇所を優先的に対応していきたい。

答 市長

側溝管理を今一度見直していきたい。

区長を通じ、地元の側溝の現状を報告していただくことを要望し、申請に繋がっていくよう進めていきたい。

防災教育の教材として、「いえまですごろく」の活用を

問

- (1) 防災学習に必要なキーワードを含み、その後の防災教育へ発展性のある教材「いえまですごろく」。

愛知県支部でも貸し出しているが、十四山東部小、西部小で利用されたと聞く。評判、感想を聞いたうえで、購入を考えてはどうか。

- (2) 文部科学省の委託事業として、十四山地区で地域ぐるみの防災訓練が実施されたと聞くが、その内容と参加者は。
- (3) この訓練を他の学校に

活かしていきたいと聞くがどのように進んでいるか。

積極的に学校へ紹介し防災教育につなげたい

答 教育部長

- (1) 家の外で1人被災した際に、安全に家までたどり着くまでに起こり得る予期せぬ事態や知っておくべき知識を学ぶことができるゲームであり、取り組みやすい教材である。

他の学校へ紹介し、購入は学校の意見も聞きながら判断していく。

- (2) 事業の中心的なもの、災害ボランティアの疑似体験として避難行動訓練（避難所体験）を実施した。
- 参加者は、児童・生徒、警察、消防、災害ボランティア、女性の会、区長会、地域住民、保育所園児。

- (3) 今後、事業成果や防災アドバイザリーからの指導・助言を他地区に伝え、各校の防災計画・防災マニュアルの見直しを含め、防災知識、防災意識を高めていきたい。



▲楽しみながら防災知識を学べる

「いえまですごろく」